

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202437
法人名	有限会社 山秀
事業所名	マミー・ケア・サポート グループホーム
所在地 (電話番号)	静岡市葵区新伝馬1丁目10番50号 054-251-6868
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月27日

【情報提供票より】(平成19年 10月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 8 人, 非常勤 18 人, 常勤換算	9

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	130,000	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(平成19年 10月 15日)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78 歳	最低	56 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	望月クリニック 高橋歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設1年7ヶ月、住宅地内にあり建物・内装共に淡いピンク系に統一されちょっと立ち寄ってみたいくなるようなホームである。男女職員が揃い年齢幅も広く恵まれた職員体制である。みんな明るく迎えてくれて、訪問しやすいとの声が沢山寄せられている。1階デイサービスとの交流は利用者の人気の一つで”そば打ち”の実演が予定されている。新ホーム長・職員・利用者が家族のような絆に結ばれ、今後、地域に根ざしたホームとしての活躍が期待される。オーナーが歯科医であり口腔ケアは重点項目となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘項目に介護計画の共有を図ること、がある。現在恵まれた職員体制で、全員がケア計画を共有しチームケアの実現を目標としている。継続的な研修についての指摘は外部研修の周知や共有はもちろん独自の研修 ”振り返りシート”は全員での取り組みが始められている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は項目によっては職員にアンケートを実施し、新ホーム長・ユニットリーダーが纏めた。管理者としても初めての経験であり評価を通じて再認識の機会となった。外部評価もホームの運営に反映しようと取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表・自治会長・ホームの関係者・職員が構成メンバーである。3か月に1回定期的に開催されている。グループホームの意義・理念が地域に理解される迄には至らないが住民の意見が出される場面もあり、徐々に交流が進められている。今後包括支援センター・老人会などのメンバーの参加を増やし活発な意見をいただきながらサービスの向上に繋げていきたい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	開設1年7ヶ月、苦情の記録はない。利用者・家族からの意見・希望・不安など何でも言える関係づくりを心がけ、聞き出す努力を望みたい。そして、それらをホームの運営に反映させていく取り組みを検討されたい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭りへの参加・見学、ボランティアの受け入れ・中学生の体験学習など積極的に地域交流している。オーナーが歯科医でもある。ホームの機能を活かし今後地域住民に呼びかけて”口腔ケア教室”など地域へ還元する取り組みをお勧めしたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念 ”ゆっくり のんびり 生きがいを持ち共に生きよう” を掲げて日々の生活を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲げて職員にもよくわかるようにしているが全員が理解して取り組んでいる迄には至らない。	○	ホームの理念を活かし毎日の生活にどのように結びつけるかミーティング等で話し合い共有する、そして素晴らしい理念を地域の皆さんに理解して頂けるよう日々の努力を望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会して祭りの参加・見学、ボランティアや学生の体験学習の受け入れもしている。さらに新ホーム長は今後に向けて新しい企画に胸をふくらましている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員と共に決め細かく評価し、サービスの改善に向け取り組んでいる。 外部評価の項目によっては職員に振り返りシート・アンケートを実施し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・自治会長・ホーム関係者・職員のメンバーで3ヶ月に1回開催している。住民からの意見も出てきて少しずつ話し合いが進んできている。	○	地域の老人会・民生委員・包括支援センター等のメンバーの参加を検討し、活発な意見をいただきながら地域に根ざしたホームとして活躍いただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と必要に応じて相談してサービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理・健康状態は毎月定期的に報告、その他必要に応じて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情は今のところ寄せられていない。いつでも話せるようにしている。	○	家族は意見・不満などを言い出し難いという事を理解し、手紙や訪問時に何でも言ってもらえる(家族アンケートより)雰囲気づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継を丁寧にし、ダメージを防ぐようにしている。新職員については家族の面会時などに紹介して馴染みの関係が出来るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を大切にして職員の事情に対応できるようローテーションを組んでいる。又ホーム長は振り返りノートを活用、ホーム独自の研修体制づくりを始めている。職員が働きながら学び、意欲向上に繋がるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との相互訪問を開始し自ホームを見直す試みを始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用の初期は本人・家族の不安がある。傾聴・気配りを大切にしている。2, 3日仮入居を試みる場合もあり、徐々に馴染めるよう相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望、その日の状態に合わせ可能な人には一緒に作業をしその関係を築いている。職員が利用者に洗濯物の合理的な干し方を教えてもらう場面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望や意向について本人・家族等から細かくヒアリングを行っている。また、職員は日々の生活の中で発見した利用者に関する新たな情報を随時メモし、介護日誌に記録を残す事で、共有し支援に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	詳細なアセスメントを基に、関係者で話し合いを行い個別具体的な介護計画を作成している。作成した計画は本人・家族に説明を行い、書面にて同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング結果を基に話し合いを行い、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。その他、利用者の状況に変化のあった際には随時の見直しもを行い臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム併設のデイサービスがあり、利用者は日常的に交流を図っている。デイサービス利用者と共にボランティアの見学をしたりイベントを楽しむ事の出来る環境がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の定期訪問診療により利用者の健康管理を行っている。かかりつけ医での受診を希望する利用者は、職員が同行し受診する事も可能である。また、オーナーが歯科医である為、口腔に関するトラブルにも早急に対応できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族と話し合いを行い、方針を共有している。基本的には病院へ転院して頂く方針だが、今後希望があった際にはホームで看取りを行う事も視野に入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者により優しくゆったりと声かけを行い、対応していた。個人情報の管理については、鍵のかかるロッカーが用意されていたものの、活用されていなかった。	○	個人情報の保管場所や保管方法等について再度職員全員で話し合いを行い、管理を徹底して頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋でテレビを楽しんだり、居間でのんびり寛ぐ等、利用者は思い思いの時間を過ごしていた。職員は利用者のペースに合わせ見守り、声かけを行い支援していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの場面では、利用者は出来る範囲で準備等に参加している。食事の際は職員も同じテーブルを囲み、さりげなく介助しながら食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に曜日により男性・女性の入浴日が決まっているが、希望があれば柔軟に対応する準備はある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中には家庭菜園での栽培や洗濯物をたたむ作業等個別での活躍・楽しみの場面を持っている。	○	一人ひとりの身体的・精神的レベルの違いがあるが、個別で活動出来るものを見出し、利用者の生活に更に張りを与える事が出来るよう、個別での楽しみを提供する為の取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や食材の買出し等、外出は日課となっている。その他、週に1度は車で少し遠くへドライブしたり、イベントの見学を行う事が利用者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	考えられる危険について事前に家族に説明し、同意を得た上で現在玄関に施錠を行っているが、管理者・職員が日中玄関に鍵をかけないで済む工夫に取り組もうとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年11月に避難・通報訓練を行った。今年の11月にも消防署の協力を得、利用者参加で避難訓練を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、朝・昼・夕の栄養のバランスを考え作成している。調理方法や量も利用者一人ひとりの体調に合わせ、臨機応変に対応している。食事の摂取量の記録は行われていたが、1日を通しての水分摂取量の記録が行われていない。	○	1日の水分摂取量を把握しておく事は、体調変化の早期発見や受診時の状況報告の大切な情報となる。記録を残す事で利用者の更なる健康管理に繋げて頂きたい。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは廊下が広く開放的で清潔感があり、温かみのある配色で統一されていた。廊下には運動会で撮った利用者の生き生きとした表情の写真が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、入居時に持ち込んだカーテン・家具・写真等馴染みの品が置かれ、自宅での生活に少しでも近付け、利用者が安心して生活出来るよう配慮されていた。		